

平成30（2018）年第4回茅ヶ崎市議会定例会

所 信 表 明

茅 ヶ 崎 市

天皇の退位等に関する皇室典範特例法（平成29年法律第63号）が、平成31年4月30日に施行され、天皇陛下が御退位されます。御退位による皇位の継承が行われ、元号が改められますが、現段階においては、元号法（昭和54年法律第43号）の規定による政令の改正が行われていないため、本方針における元号の表記は「平成」を用いることとします。

所信の表明をする前に、一言申し上げます。

去る10月4日、平成15（2003）年度から15年5か月という長きにわたり市長を務められた故服部信明前市長が、逝去されました。故人は、市長在任中、本市が直面した様々な問題に対し、強いリーダーシップを発揮し、的確に対処してこられたほか、保健所政令市に移行するなど時代の変化に対応し、茅ヶ崎の飛躍に尽力されてきました。4期目の任期があと半年となり総仕上げに向かうさ中に、志半ばで残念ながら永眠されました。

故人の功績に深く敬意を表するとともに、故人の茅ヶ崎に対する想いをしっかりと引き継ぎ、さらなる茅ヶ崎の魅力アップを目指してまいる覚悟であります。

それでは、私の市政に対する所信を申し上げます。

議員の皆様をはじめ市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本市は、昭和22（1947）年の市制施行以来、70年以上が経過した現在、人口も24万人を超え、穏やかな気候・風土の中、多くの方々の英知と努力により湘南の中核を担う都市として着実な発展を遂げてまいりました。

私は、これまで本市の発展に寄与された多くの先人の皆様に深く敬意を表するとともに、今後予想される人口減少社会の到来、少子高齢化の進行の中にあっても、持続的に発展することができるまちを目指していくために、まさに「茅ヶ崎の未来を創るために」、精一杯努力してまいる所存であります。

また、二元代表制のひとつである市議会議員の皆様とは、常に情報の共有を図り信頼関係を構築するとともに、対等の立場に立った良い緊張関係を保ちながら、市政の議論を尽くしてまいる所存であります。

さて、アベノミクスの名のもとに矢継ぎ早に放たれた様々な施策の影響により名目GDPが過去最高となったほか、就業者数や企業収益も増加基調にあり、わが国の経済は確実に回復しております。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらなる飛躍が期待されているところであります。

こうした明るい傾向が続いている一方で、人口減少社会の到来と少子高齢化の進行は、わが国の喫緊の重要課題となっております。この難局に対応するため、国においては、ロボット・IoT・人工知能といった技術の活用による「生産性革命」とともに、子育て世代への投資、社会保障の充実、財政健全化のバランスをとりながら「人づくり革命」

を進めることとしております。

本市においては、現在のところ、人口の微増傾向が続いておりますが、平成32（2020）年度をピークに人口減少がはじまるものと推計されております。また、本市の今年はじめの65歳以上の高齢者の割合は、26パーセントに到達し、今後もこの割合は増加するものと推計されております。

このように、今後の市政運営は難局を迎えることが予想されますが、選挙の公約に掲げた「子育て支援策の強化」、「高齢者に優しい茅ヶ崎」などをはじめとして、子どもから高齢者まで様々な立場の方をしっかりと社会で支えることができる仕組みの実現に向けて、粉骨砕身に努力してまいり所存であります。

さて、平成31（2019）年度予算につきましては、現在、予算編成作業を進めているところであります。行政の継続性が重要なことを踏まえ、継承を基本としてまいりますが、変えるべきところは変え、進化できるところは進化をさせていくため、骨格予算として編成してまいります。私が見直すべきと判断した事業については、限られた財源の中身を精査し、一部修正を行った上で、平成31（2019）年第2回市議会定例会を目途に提案をしていく次第

でありますので、議員の皆様には何卒御理解をいただきたいと思いをします。

次に今後の具体的な施策の方向性について、その一端を述べさせていただきます。

はじめに「子育て支援」であります。

小児医療費助成事業については、現在小学校6年生までとしていますが、中学校3年生まで拡充いたします。子育て世帯の経済的負担を軽減し、茅ヶ崎の未来を担う子どもたちの健康を守るため実現を目指してまいります。

故服部市長の強い想いにより推進してきました「新たな待機児童解消対策」につきましても、これまでの取り組みの結果、保育園の待機児童は大幅に減少しております。この取り組みを引き継ぐとともに、さらなる強化を進めることで、待機児童ゼロを目指してまいります。

また、あわせて待機児童の増加が予想される児童クラブについても、従来の公設民営はもとより、民設民営も含め充実を図り、待機児童の解消を目指します。

中学校給食の実施を目指します。この課題については、これまで市議会においても、度々議論されてきたことは承知しております。財政面をはじめとして、様々な課題があると認識しておりますが、他市でも行っている「親子方式」による実施など、こういった手法が考えられるか、早急に

議論を始めてまいります。

茅ヶ崎版子ども食堂の実施を進めます。これまでも市内の地域において、子ども食堂の取り組みが進められてきましたが、市内の飲食店や企業に御協力いただく仕組みの構築に取り組んでまいります。

次に「福祉・医療」についてであります。

まず市立病院の経営改革を進めます。地域に公立病院を置き、安定して医療サービスを提供することは、何よりの安心であります。本市においてその役割を担う茅ヶ崎市立病院が2年連続で約10億円の純損失を計上しています。これを放置しては、「急性期病院」の役割を継続していくことはできません。収支改善に向けた取り組みを進めるとともに、どういった経営形態が適切か検討を早急に進めてまいります。

高齢者の活躍を推進します。人生100年時代を迎え、65歳以上イコール高齢者という概念が、変わってきています。本市においても、これまでも生涯現役を応援してまいりましたが、今後も高齢者の活躍の場を提供し、健康寿命の延伸に取り組んでまいります。

次に「スポーツ振興を通じた地域づくり」であります。

運動を通じた市民の健康づくりという観点や、同じスポ

ーツを楽しむことにより育まれる地域交流や顔の見える関係づくりの観点からも、スポーツ振興に向けた施策は本市にとって欠かせない施策であると考えております。

本市には、市が設置している体育館や体育施設、スポーツ公園などの公共施設はもとより、民間スポーツ施設につきましても数多く存在しております。また、各種競技団体が主体的かつ活発な活動を展開するなど、スポーツ振興の担い手としての社会資源が充実しております。これらの社会資源をしっかりと活用することにより、市民が健康でかつ、茅ヶ崎が活力みなぎる「まち」となるよう、スポーツ振興のさらなる充実に向けて取り組みを進めてまいります。

次に「経済活性化」についてであります。

柳島に計画されている道の駅の整備については、オープンの延期が決定されたところであります。圏央道利用者の利便性向上はもとより、地域経済活性化の起爆剤となるものであり必要な施設であると考えます。しかしながら、事業の推進には、採算性などのリスクを伴うものであることも事実であり、オープンの延期により得られた2年間をチャンスと捉え、市民の皆様にも愛される道の駅とはどういったものなのか、再検討をしてまいります。

最後に、「行政経営」についてであります。

職員の働き方改革を進めます。職員が疲弊した状態では、良い住民サービスを提供することはできません。単に職員のためだけの改革ではなく、市民の皆様の期待に応えることのできる行政の体制を整えるため、職員の働き方改革を進めてまいります。

中核市の移行につきましては、湘南の中核を担う都市としての権限を持つために移行を目指すべきものと考えます。しかしながら、これまでも市議会において活発に議論されてきましたとおり、財政面を含め、様々な課題があるものと認識しております。まずは、平成29（2017）年度に移管された保健所の安定的な運営に取り組みながら、検討を進めてまいります。

近隣自治体や国・県との広域連携をさらに進めてまいります。

限られた財源の中で、多種多様な行政課題に効率的に対応するためには、本市単独で取り組むことが必ずしも市民サービスにつながるとは言えない場合もあります。そのため、近隣自治体と連携協力して取り組むことが費用面及びサービス向上の観点からも効果的な場合においては、広域連携の積極的な取り組みを進めてまいります。本市において、既に検討を進めている寒川町との消防広域化について

は、平成34（2022）年度の実現を目指しておりますが、こうした事例について、今後も検討してまいります。

また、近隣自治体との連携のみならず、国や県との適切な役割分担による広域連携の推進も重要なことであると考えます。5期約20年の県議会議員としての経験を生かし、国や県との連携につきましても積極的に進めてまいります。

次期総合計画の策定と、計画推進を適切に行うことができる組織の構築を進めてまいります。

故服部市長の指揮のもと、平成23（2011）年度に計画期間を10年とする茅ヶ崎市総合計画を策定し、市政運営を進めてまいりました。この総合計画が平成32（2020）年度で計画期間を終了することから、平成33（2021）年度からスタートする新たな総合計画の策定作業をすすめております。様々な声を伺いながら新たな時代にふさわしい計画となるよう取り組んでまいります。

行政組織について、これまでは総合計画の計画体系との連動を基本としてまいりました。次期総合計画を推進するための組織機構につきましても、これまでの考えを踏まえながらも、時代の変化に対応できるよう、柔軟性を持たせた組織となるよう検討してまいります。

なお、ここまで述べてきた具体的な施策のほか、これま

で前市長が進めてきた重要施策につきましては、それぞれの取り組んできた経緯等を踏まえつつ、個々の施策の必要性や実施手法について慎重に精査してまいります。

以上、私の市政に対する所信の一端を述べさせていただきました。ここまで述べてきましたように、理想とするまちの実現のためには、乗り越えるべき多くの課題があります。しかしながら、平成の、その先にある新たな時代に向かって、臆することなく課題に立ち向かい、「市政に直球勝負」を合言葉として、職員一丸となって、茅ヶ崎の新たなまちづくりに邁進してまいります。

議員並びに市民の皆様の御理解、御協力を心よりお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。